

みんなにやさしいまちに  
～モデル地区推進部会活動報告書～  
〈平成24年度〉



平成25年3月

さいたま市福祉のまちづくり推進協議会  
モデル地区推進部会

<目 次>

I. 福祉のまちづくりモデル地区推進事業	1
II. 大谷場中学校での具体的活動内容	3
III. 参加者の声から	
平成24年 9月21日 ふれあい学習時 参加者アンケート	7
平成24年 9月28日 まち歩き学習時 参加者アンケート	9
大谷場中学校3年生 まとめ	11

---

# I. 福祉のまちづくりモデル地区推進事業

---

## 1. 目的

- この事業は、平成16年3月に制定した「だれもが住みよい福祉のまちづくり条例」に掲げる目的である「だれもが心豊かに暮らすことのできるユニバーサルデザインの都市の実現」のため、総合的かつ計画的に推進するための基本となる「福祉のまちづくり推進指針」を策定し、目的を達成するための一つの方策として、モデル地区を設定し、ハードとソフトが一体となった総合的な福祉のまちづくり活動を行うものです。

## 2. 対象地区

- 平成18年度から平成21年度までについては、本市の交通バリアフリー基本構想の重点整備地区に指定されている浦和駅周辺地区・北浦和駅周辺地区・大宮駅周辺地区での活動を優先的に取り組んできました。

- 浦和駅西口地区：高砂小（平成18年度）
- 浦和駅東口地区：仲本小（平成19年度）
- 大宮駅東口地区：大宮小（平成20年度）
- 大宮駅西口地区：桜木小（平成21年度）

なお、平成22年度に福祉のまちづくり推進指針を改訂し、平成22年度から平成26年度（第2期）の期間については、モデル地区事業の対象を、交通バリアフリー基本構想にとらわれることなく柔軟に対応することとしました。

- さいたま新都心周辺：下落合小（平成23年度）
- 南浦和駅東口地区：大谷場中（平成24年度）

## 3. 活動イメージ

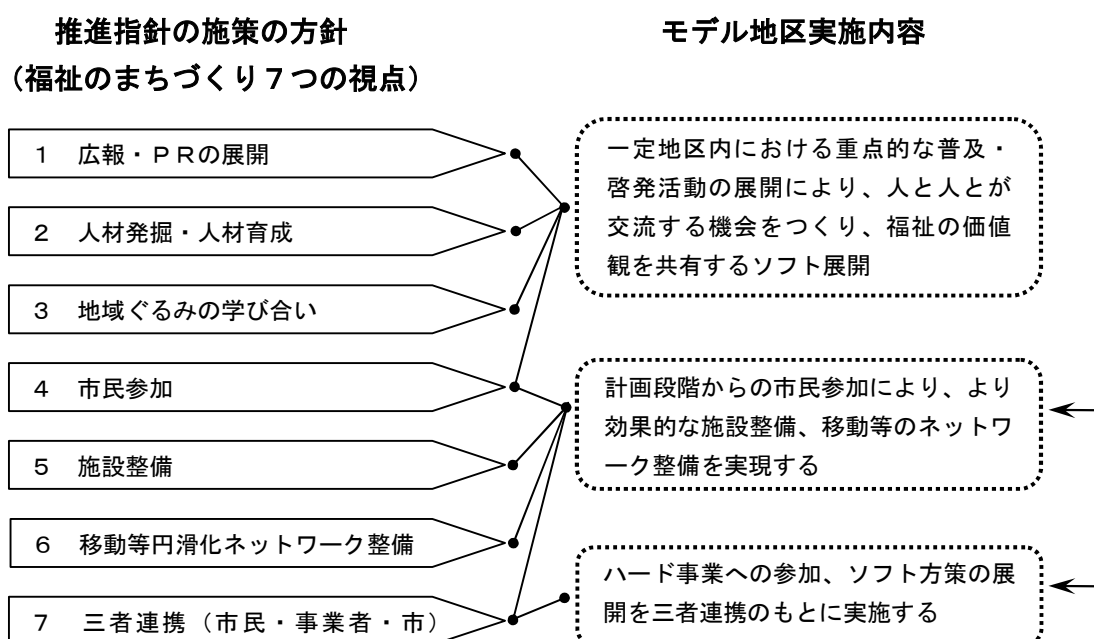
- 「広報・PR」、「人材の育成」、「学び合い」、「施設整備への市民参加」などをキーワードに、児童や保護者、地域の方々とともに、バリアフリー体験学習、まち歩きによる点検、学び合いなどを行います。  
なお、小・中学校でのバリアフリー体験学習は、各学校のスケジュールやカリキュラム等と連携して行っています。

#### 4. 組織

- 「モデル地区推進部会」は、「さいたま市福祉のまちづくり推進協議会」の中に設置された部会で、NPO、福祉関係団体、交通事業者、自治会関係、教育関係、行政職員によって組織され、モデル地区事業を推進しています。

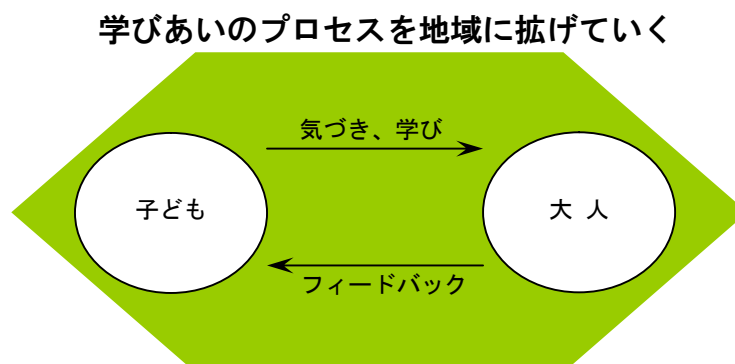
#### 5 モデル地区の事業展開

- 地区内の学校と協力した福祉教育の展開・調査やマップづくり・イベントと連携したPR・施設整備への意見といった活動を、次の「福祉のまちづくり7つの視点」に基づいて進めています。



#### 6 学び合いのイメージ

- 子どもたちに福祉のまちづくりを伝えて気づきを促し、その豊かな感性から生まれるアイデアを大人たちに伝え、再び大人たちからのフィードバックを受け取るという学び合いのプロセスを実現し、一定期間継続することで、地域に広がっていく活動を想定しています。



## Ⅱ. 具体的活動内容

モデル地区事業は、学校の総合的な学習の時間を利用して、モデル地区推進部会委員をはじめ、障害のある方や市福祉関係団体等の協力を得て、福祉のまちづくりとともに学びあえる機会をつくり、地域に暮らす父兄や住民等に参加を呼びかけ、実施しています。

学校では、障害のある方や高齢者、妊産婦経験者等の方々からの聞き取り学習や、アイマスクや車いすを使用しての各種体験学習、まち歩き学習、学習発表会など多様で総合的な学び合いのなかで、「心のバリアフリー」に取り組んでいます。

### 大谷場中学校での取組について

大谷場中学校では、3年生（6クラス：205名）を対象に実施しました。

#### (1) 取組の概要

##### 【参加者】

モデル地区推進部会の他、肢体・視覚・聴覚・知的の各障害者団体から選出された方、ボランティアグループ、保護者、社会福祉協議会、社会福祉事業団、市関係課職員(約60名)が参加しました。

##### 【みんなにやさしいまちに】

高齢者や障害のある方について知り、共に理解しあい、助け合って生きていくことの大切さに気づき、自分の生き方や生活にいかしていく。

過程	ねらい	子ども達の活動
ふれる	高齢者、障害のある方やバリアフリー、ユニバーサルデザインなどについて知り、これからの学習意欲をもつ。	<ul style="list-style-type: none"><li>・ 高齢者や障害のある方と直接ふれあうことにより、バリアフリーについて知り、車いす、アイマスク、白杖などの歩行体験を行う。</li><li>・ ユニバーサルデザインについて知る。</li></ul>
つかむ	「ふれる」場での活動を通じて、自分なりの課題をつかむ。	<ul style="list-style-type: none"><li>・ 自分なりの思いや願い、具体的な活動につながる課題を考える。</li><li>・ 課題に合わせてグループを作り、活動計画を立てる。</li></ul>

追 求 す る	自分の知りたいことを追求する。	・ユニバーサルデザインやバリアフリーの視点で身近な地域の見学や歩行体験をして、課題を追及する。
ま と め	自分に出来ることや、もっと住みやすいまちにするための改善策を提案する。	・今まで追及したことをもとに、自分に出来ることや、もっと住みやすいまちにするための改善策を提案しまとめる。 ・発表会を行い、自分達が学習してきたことや住みやすいまちづくりのための提案を伝え合う。 ・自分の生活に生かす。

## (2) ふれあい学習

日 程	内 容	場 所
9 / 21	<p>☆ふれあい学習</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・バリアフリーやユニバーサルデザインについて知る。</li> <li>・高齢者や障害のある方々とのふれあいを通して、お互いを正しく理解し、共に助け合い支え合って生きていくことの大切さを気付く。</li> </ul> <p>☆疑似体験の準備</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・車いす、アイマスク、白杖、高齢者疑似体験グッズなどの使用方法を学び、次回のまち歩き学習に生かす。</li> </ul>	中学校体育館など



### (3) まち歩き

日 程	内 容
9 / 28	<p>視覚・聴覚・肢体・知的の障害当事者の方々や高齢者、保護者、ボランティアグループの方々、モデル地区部会委員、社会福祉協議会職員、社会福祉事業団職員、市関係課職員と共に、大谷場中学校周辺のまち歩きを行った。</p> <p>◎まち歩きコース</p> <p>①浦和競馬場待機房脇駐車場方面</p> <p>②太田窪4丁目公園方面</p> <p>③御嶽公園方面</p> <p>④葉根木公園方面</p> <p>⑤大谷場公園方面</p> <p>⑥上谷沼-2 広場方面</p> <p>6クラスを18グループに分けて、障害当事者の方々と約1時間をかけて歩いた。その中で、まちを歩く上での不便さを質問したり、疑似体験グッズを使用することで、実際にまちの中の便利さ・不便さを自ら体験する。</p>



### (4) 発表会

日 程	内 容	場 所
10 / 19	<p>〈まとめる〉</p> <p>活動に参加した関係者が参観するなかで発表会を開催した。</p> <p>☆グループごとにスクリーン等を使用し、これまでの学習で発見した「福祉のまちづくり」の課題と、それに対する提言について、3分程度の発表を行う。</p> <p>高齢者について                      3グループ</p> <p>視覚障害について                      3グループ</p>	中学校体育館

聴覚障害について	3グループ	
車いす使用者について	3グループ	
肢体不自由について	3グループ	
知的障害について	3グループ	
		





---

### Ⅲ. 参加者の声から

---

#### 平成24年9月21日 ふれあい学習時 参加者アンケート（抜粋）

##### I 【問】 今回の授業（モデル地区活動）に参加してのご感想をお聞かせください

- 1 講師の方は、熱射病で4歳の頃に聴覚に障害を負ったつらい経験を乗り越えて、自動車を運転したり、障害があることを感じさせない明るさやパワーがあって、障害者への理解を深めるだけでなく、生きることの素晴らしさについても生徒達に学ぶ機会が与えられるものであったと感じました。【市関係課】
- 2 生徒の皆さんが熱心に障害者の方へ質問する等、福祉への取り組みが真面目で熱心であることがうかがわれた。健全者も障害者の気持ちに寄り添っていこうとする姿勢が感じられ、良い企画であると思う。【部会委員】
- 3 久しぶりに中学生とふれあい楽しかった。【障害者団体】
- 4 大勢の中学生の皆さんと接し、思わぬ質問等で考えさせられたり、楽しい一時を過ごすことができました。福祉に関する総合学習がどんな学習なのか、初参加のため解りませんでしたが、「福祉に関する事」というより、今までの経験等に基づく生活上の事に関する質問が多かったように感じた。【自治会】
- 5 子供達が素直で良い子でした。よく勉強している子供もいました。【障害者団体】
- 6 専門の講師、例えば車いすの使い方、肢体不自由者児への技術的なアドバイス、心遣い等、教えている様子を見て、生徒はより多くの経験（体験も行って）が出来たと思う。【部会委員】
- 7 生徒さんもスタッフも私達も、緊張や警戒心もなく自然体で1時間を過ごせました。周到的計画のおかげで、生徒さんの用意して下さった質問に感心しましたし、私達当事者と生徒さんの橋渡しと進行に実情を知りつけていらっしゃるスタッフが当たって下さり、個人差が大きい当事者が自分の実態を正直に発言でき、聴いてくださった生徒さんに感謝します。【障害者団体】
- 8 講師の方が明るい方で、生徒がかえってびっくりしているようでした。障害者の日常を見聞きすれば、イジメをする人も考えるのではないのでしょうか。【部会委員】

##### II 【問】 生徒の気づきや言葉で印象に残っていることがありましたらお聞かせ下さい

- 1 「日常生活で困っていることは何か」、「障害があることについてどう思うか」、「将来、どんなまちになってほしいか」など、考えさせられる、また、大人ではなかなか尋ねにくい質問があったことが印象的でした。率直に知りたいという気持ちが伝わってきて、皆、熱心だと感じました。【市関係課】
- 2 聴覚障害者への質問で「手話の通訳者は足りていますか」という質問に対し、「警察官や看護師、医師または身近な病院関係者に手話を学んでほしい」と答えていた。手話だけでなく、本音の所では、色々な面で不便を感じているだろうと思った。【部会委員】
- 3 どこかに、今どきのという思いがありましたが、とても素直な子供たちで、質問に素直に答えられました。【障害者団体】
- 4 グループの班別に分れた時、高齢者3名に対し、椅子が2脚で1脚不足していた。1名が座れない状態に気付いた生徒さんが逸早く椅子を持参し「どうぞ」と声をかけ座れるよう並べてくれました。これは、高齢者や弱者に対し、何時も思いやりを持つという心遣いが実践につながったものと思い、心温まり感謝するとともに、

実践教育の効果のあらわれと感じた次第です。【自治会】

- 5 最初の印象として礼儀正しく、全員で大きな声で体育館まで出迎えてくれたので、これからは一人でも多くの生徒が福祉のまちづくりに興味を持ち、福祉に対し学びながら、将来、貢献の担い手がより多く出ることを期待したい。【部会委員】
- 6 予め用意し合っていた質問は、どれも突っ込んだ中身の濃い質問ばかりでしたし、集中した時間でした。情報とコミュニケーションの有り方につける質問ばかり（言葉や表現はちがっていても）さすが中学生です。この企画は大成功だと思います。【障害者団体】
- 7 質問の準備もよく、我々の話しをよく聞いてくれたし、目が輝いている生徒も多かったのもので、それなりの効果があった。【自治会】

### Ⅲ 【問】 次年に向けての問題や課題、改善した方がいいと思っただけがありましたら、お聞かせください

- 1 講師2名のはずが、1名しか来られなかったことについて、事前に説明をいただきましたかった。疑似体験グッズが用意されていなかったこと、社協の方がグッズの説明をすることについて把握されていなかった為、疑似体験グッズの説明をすぐに開始できませんでしたので、予めの準備をお願いしたいと思いました【市関係課】
- 2 大谷場中学校への道案内が地図を渡されたがわかりづらい。目の不自由な方や、耳の不自由な方につくボランティアさんにもわかりやすい案内図を用意した方がよい。ボランティアや私達にも地図がわかりづらく、大変だったという声がかこえた。
- 3 知的障害を理解してもらうには、時間が足りないと思いました。是非、施設の方に出向いて欲しいと思います。【障害者団体】
- 4 高齢者や学生さんに、課題を明確に設定していただいた方が良いように思いました。【自治会】
- 5 視覚障害者は、ほとんどスリッパは履きません。階段が歩きにくいです。【障害者団体】
- 6 中学生と直接ふれあい、言葉をかかわることが出来なく少し残念（20分間の短い時間では無理であったと思うが）。各グループを見学するのに時間がなく、できない場所もあった。また、対象者に対する生徒の質問する声小さく、聞き取れなく残念（1つの教室に3班）であり、多少の工夫を。【部会委員】
- 7 当初の説明より規模が大きかったのに驚きました。当日渡されたメニューが初めから知っていれば、各会長さんに内容説明がはっきりしたと思う。【自治会】
- 8 時間を2時間くらいほしい。説明は防災のこと、高齢化対策、災害時の情報のあり方など配慮したが考えてほしい（住みよいまちづくりについての討論が重要）。【自治会】

## 平成24年9月28日 まち歩き学習時 参加者アンケート（抜粋）

### I 【問】 今回の授業（まち歩き）に参加してのご感想をお聞かせください

- 1 まち歩きをすることによって、当事者（あらゆる障害を持った人）がまちに出て健常者と共に生活を少しでも楽しくする上で、ソフト面・ハード面を構築して行き、住みよいまちにして行く必要があると感じました【部会委員】
- 2 「まち歩き」に時間いっぱい最初から最後まで真面目に積極的に参加していました。白杖の先で何を感じる事が可能か体験できて興味深くなり誘導（介助）する人、される人が意気投合しているグループが沢山みられました。やはりこうした体験学習は中学生になってから実施した方が理解しやすいようです。【障害者団体】
- 3 ルート設定は適当な距離でよかったと思います。グループの人数は、12人が限界だと思いました。声が前方から後方まで届いていないと感じることもあり、もう少し人数が少ないほうが情報共有しやすいと感じました。【市関係課】
- 4 参加して思ったことは、まず、障害者に対する理解がどれだけできているかということです。1%でも良いので、今までの学習を生かして頂ければと思います。【障害者団体】
- 5 これからの社会を担っていく若い人達に高齢者や障害者の体験をしてもらうことは、将来のまちづくりに直接的、間接的に必ず役に立つと思う。今後もこういった取り組みを継続していくとよいと思う。【部会委員】
- 6 学校の周りはアップダウンの多い場所ばかりで、手動車いす的には不便さを感じる体験が多く、分かりやすかったと思う。

### II 【問】 生徒の気づきや言葉で印象に残っているものがありましたらお聞かせください

- 1 車いすに乗っている生徒に乗り心地を聞くと「まあまあ」と答え、押している生徒に大変か否かと聞くと「大変」という双方冷や汗をかきながら答え、本音で素直であった。車いす体験者同士がぶつかりあって体験していることは冷や汗をかいている様子が見え、生徒が多くのことを学んだのではないかと思う【部会委員】
- 2 道具について、高齢者体験グッズや車椅子もひと工夫（新しい形式）必要ではないでしょうか。10年前と同じでは真面目に学習する生徒に申し訳ないような気がしました。白杖は身長に合わせるように、もっと長いものを用意しないと中学生には合いません。【障害者団体】
- 3 聴覚障害者が道に迷った時、尋ねられたらどうやって対応したらよいか、また、どんな人が道を尋ねられやすいのかと具体的な対応方法について生徒が興味深く質問していたことが印象的でした。また、聴覚障害者の方は見た目では障害があることがわからないが、当事者の方々は気付いてほしいとは思っていないが、街中にはそのような方がいるかもしれないことを知っておいてほしいという言葉が印象に残りました。【市関係課】
- 4 生徒たちには良い経験になったと思います。今までの積み重ねた学習を生かして、どんどん質問、疑問点等を出してほしかったです。真面目に取り組んでいる姿勢が伝わってきました。
- 5 「交差点にミラーがないと車の来ることを確認しづらい」、「電話ボックス等に入れない（車いすごと）」、「段差があると前のめりになって、車いすに乗っていると怖い」など、実際に体験してみて素直に言葉を発していた。【部会委員】
- 6 「体感、対話することで、理解が深まった」という生徒の発言。

### 3 【問】次年度に向けての問題や課題、改善した方がいいと思っただけがありましたら、お聞かせください

- 1 コースがグループ6まであり、全部に参加することが出来なかったのが（生徒数も多く）残念。次回は日程を何回か分け、中学生の福祉体験を見てコメントできればと思った。出発前に生徒への質問（事前に学校で福祉について学んでいるのか）をしたが、生徒は学んでいないとの答。少しでも学校で学ぶ時間を設けてはと思いました。中学3年生は大変なので中学2年生ぐらいから学んでは。【部会委員】
- 2 2日間とも参加者名簿や計画を資料として出してくださったので、不必要な緊張もなく気持ちよく参加させていただきました。あのプリントを同時援護のヘルパーさんに読んでもらい全体像をつかんだ上で行事に参加できたのは初めてです。【障害者団体】
- 3 中学生の一学年すべてが対象であったことにより、人数が多く、人員配置に無理があったと感じます。次年度は、学校の要望もあるかとは思いますが、無理のない人員配置が可能な内容をご検討いただきますよう、よろしく願いいたします。【市関係課】
- 4 特に、聴覚障害者に対するコミュニケーションがなかなか難しい様子でしたので、まず、コミュニケーション手段を少しでも身につけてほしいです（通訳者なしで）。【障害者団体】
- 5 今回は小雨等の天候であったが、雨が降った場合どのような企画ができるのか難しいと感じた。人数が多いので、コントロールが難しい。【部会委員】

## 大谷場中学校3年生 まとめ（抜粋）

### ・障害者の方のお話からわかったことや感じたこと

- 1 障害者の方でも楽しめるスポーツ（卓球）等がある。白杖をつくための訓練に行き、普通の道を歩ける。買い物は店員さんに頼んでやっていた。遠い所に行くには、ヘルパーさんと一緒に行く。食事、洗濯なども自分ででき、家の中のことはよくわかっている。普通の人とあまり変わらない生活をしている。
- 2 とても前向きな方だと思った。生まれつきというのもあるが、障害は個性だと考えていてびっくりした。障害があっても家や車いすなどにいろいろな工夫がされており、やることなどは一般の方と変わらず、ちゃんと仕事していることがわかった。講師の方はうまくしゃべれず相手にうまく伝わらないことがよくある中で、相手に生返事をされることに困っていることがわかった。そこで、よくわからなかったときは聞き直すことが大事だと思いました。
- 3 知的障害者の方から、障害をもっているけど普通の人と同じような所があるということを感じた。今回お会いした方はとてもひたむきな方で、誰よりも速く一所懸命に歩いていた。それを見て、障害を持っていても物事に取り組む姿勢は私たち以上に真剣なものだと思った。知的障害者は1つの目標を決めたら、それだけしか見えなくなることがあるということを知り、周りのことを優しく気付かせてあげることが大切だと思った。
- 4 耳が不自由だと車や自転車がうしろから来てもわからないし、手話をしながら歩くと、止まっている車などにも気づかなくて危ないということがわかりました。また、お湯を沸かすときに音が聞こえてこなくて大変だったり、洗濯のときや掃除のときにインターホンのお知らせランプがあることを初めて知りました。でも、仕事をしていたり子供がいたり・・・本当に普通の生活をしているのを知り、少し驚いたけどすごいなと思いました。
- 5 世界保健機関では65歳以上が高齢者とされていますが、70代では、まだそこまでたくさん不自由はないことがわかりました。しかしやはり、60、70と10歳ごとに疲れを感じるのが早くなるそうです。また、不自由なことといえばお金がないことと言っていたことに驚きました。私の祖父は私にいろいろなものを買ってくれるけど、高齢者は収入がないのでお金持ちではないんだなと思いました。そして私たちの世代に求めていることとは、「夢や希望を大きくしてもらいたい」ということでした。今の時代は情報がたくさんあるけれど、それが正しいのか見極めてほしいと言っていました。私たちは今、夢があるのでそれが実現できるようにできる限りの努力をしたいと思います。

### ・疑似体験を通してわかったことや感じたこと

- 1 「アイマスクと白杖」  
いつも通っているような近所でもいざアイマスクを付け見えないようになると、自分の距離感が分からなくなり、とても怖かった。少しの坂や段差でもとても大きく変わったように感じたし、狭い道の時に脇を通る自転車もとても怖かった。
- 2 「車いす」  
車いすでの疑似体験を通して、普段歩いても全く苦にならないところなども車いすで行くとちゃんとした階段や道路に落ちている石ころなどが大変だった。

交差点でも横を見ることができていないので、危険だった。

### 3 「電動車いす」

電動車いすに乗ってみてブレーキをかけるときや走り出す時に車いすから落ちてしまいそうだった。足が使えない人は前に落ちてしまったら、転んでしまうので危険だと思った。乗る機会はなかなかないのでいい経験になった。

### 4 「耳栓」

疑似体験を通して、すべてではなくともだいたい音が聞こえないだけでも不安だし、自分の足音が響いてきてわかったり、近くにいる友達の声が聞こえるくらいで、話をしたくても自分がどれくらいの大ききで話しているかわからず、話しにくかったです。

話の内容を理解するために口の形をみると前が見えず危険なことがとてもよくわかりました。

あと、無言で前や下をみて歩いていたので、少し気持ちが暗くなりました。私たちは歩くとき耳からの情報がとても多く、大切なんだなと思いました。

### 5 「高齢者疑似体験グッズ」

手や足は思った以上にかなり重くて、背中をずっと丸めているのは腰がすごく痛くなりました。また、ゴーグルもつけてみると視界が黄色っぽくて、とにかく視界が狭いのが大変でした。道を歩くと自転車や車、ポールなども見えないことがあるだろうと思いました。高齢者にとって外出することは危険なことなんだなと思いました。この状態で毎日いるのはつらいだろうと思います。

## ・まち歩きをして気付いたことや考えたこと [問題点]及び[改善点]

- 1 校内に点字ブロックがあるが花壇があつて、とても危ない。→花壇の位置を変える。  
排水溝の溝で杖がひっかかって折れる。→杖がひっかからないくらい細くする。
- 2 交差点で横などが見えづらい。→交差点の角などにミラーを付ける。  
小さい段差が車いすで進みづらい。→小さな坂をつくる。
- 3 車道と歩道の区別がない。→色分けやガードレール等で車道と歩道の区別をつける。  
滑りやすいところがあり危険。→道路には滑りにくい素材を使う。
- 4 歩道と車道の区別がなく、とても危ない。→歩道を作る。ガードレールをつくる。
- 5 道幅がせまいこと。→道幅を広くする。狭い道では特に自転車のスピードに注意する。

## ・障害者の方との交流を通じて感じたことや考えたこと、感想

- 1 自分たちではわからないことをたくさん聞いて良かったし、それを自分の身で体験をし問題点をみんなで考えあつてとても貴重な体験をした。白杖など、科学技術を使ってどんどん使いやすくしてとても驚いた。今回学んだことをいつでも使えるように覚えていきたいです。
- 2 障害を持っていても前向きな方だなと感じた。自分でできることは自分でやってすごいと思った。  
しかし、できないことも多いのでいろんな人の協力が必要だと思った。  
町などでも危ないところがたくさんあるので、改善できるところは改善したい。
- 3 今回、知的障害者との交流を通して、障害者にやさしいまちを創るにはまずその周りの人の意識が大切だと思った。  
まち歩きするとき、知的障害を持っていると信号が青でも自分が渡ってもいいのかや、どのタイミングで車がくるのか分からないということを知り、それを見た人に助けてもらおうと嬉しいということを知っていました。

困ってそうだと感じたら、親切に声をかけるという簡単なことで障害者を助けることができるので、そういう親切心が障害者に優しいまちづくりへの第一歩だと思った。

- 4 実際に聴覚障害の方とかかわるのは初めてでした。耳が不自由だと車や自転車が危ないということだけではなく、お湯を沸かすのが大変だったり、インターホンにランプがついても気が付けないことがあったり、毎日いろいろなところに気をつけているんだなと思いました。質問をしたとき、待ち時間がわかる信号が便利だと言っていてとても納得しました。しかし、それはあまりなかったので増やしてほしいです。

聴覚障害者の方々に何の音を聞いてみたいか聞いたところ、家族・自分の声を聞いてみたいという方が多かったです。

音のない世界のことをよく理解できたので、これから町であったら積極的に手助けしたいです。

- 5 高齢者の体に不自由な所が出る期間は人さまざまであるけれど、やはり私たちよりは動きが鈍かったので、高齢者がいたら、電車など様々なところで気遣ってあげたいです。何よりも、自分のおじいちゃんは大切にしたいと思います。

発行

〒330-9588

さいたま市浦和区常盤6-4-4

さいたま市保健福祉局福祉部福祉総務課

電話 048-829-1254

FAX 048-829-1961